

経済学部商業学科通信教育課程

【2025 年度 大学評価総評】

教育課程の特徴から、メディアスクーリングやデジタルコンテンツ作成の充実が図られてきたことは評価できる。また、多様な学生に対して教育を提供するリカレント教育の場であるという意識のもと、卒業生による体験談などの公表による学習モデルの提示と勉学の動機づけについて、ホームページ等を通じて周知し、本学科と大原学園間の併修協定による成果を検証し、協定の継続更新がおこなわれたことは評価できる。

また、ガイダンスも時期を早めて4月の初旬に実施し、動画配信もおこなうなど、カリキュラム全体についても履修計画などへの便宜が図られていることは評価できる。さらに、スクーリング科目からメディアスクーリング科目への順次移行に関する意思決定を行ったことは大いに評価できる。このような取り組みを通じて、各授業の理解度の向上や学習意欲の強化、さらには離席率の減少につながることも含め、今後の成果が期待される。

他方、学生による不正行為の増加が指摘されている。学習ガイダンスにおいて、不正行為の防止をさらに徹底するとともに、各授業においても試験実施の際に不正行為防止の呼びかけを徹底する必要があるといった対策の効果に関して、継続的な調査や検証といった今後の努力に注目したい。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】(参考)

経済学部商業学科通信教育課程では、入学定員充足率の5年平均および収容定員充足率は基準値を満たしていないが、市ヶ谷キャンパスのみならず地方でも入学説明会を開催しメディアスクーリング科目数を拡充するなど、現状の改善に向けた適切な努力を重ねている点がおおいに評価できる。コロナ禍に導入された通学課程用オンデマンド型教材を通信教育課程にも用いるなどのデジタルコンテンツの拡充や、添削型の通信学習をメディアスクーリングへ移行させ、スクーリングや卒業論文などの対面指導のオンライン化の検討に見られるように、コロナ禍の正の遺産を有効活用することが学習成果につながることに期待したい。

一方で、入学した学生に対しても、年度初めのガイダンスに限定されない初年次教育の充実化を通して離席率に歯止めをかける取り組みを実施している点も高く評価できる。同時に、学修上の不正行為防止の取り組みが成果を上げることに対しても期待したい。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

経済学部商業学科の近年の入学定員充足率は横ばい傾向であるが、増加に転じさせるには、従来からの市ヶ谷キャンパス内に留まらない地方における説明会およびスクーリングの開催を継続することに加え、若年層入学者を含む多様なニーズへの対応として、メディアスクーリング科目を新規開設しコンテンツをデジタル化するという ICT を利用した改善の検討が引き続き必要となる。特に、メディアスクーリング科目の今後の展開については、開講科目の配置や担当者の負担も考慮しながら、引き続き具体的に検討を進めたい。

2025 年度からは春学期の学習ガイダンスを4月の初旬に実施し、初年次教育の充実化を図っている。これは学生が入学後の早期に適切な学習プランを立て、自身の学習環境を構築できるよう支援すると共に、学生が学びの場にのぞむ姿勢を正しく身に着けることでその後の不正行為の防止などにもつなげようとする取り組みである。録画された学習ガイダンスはデジタルコンテンツとして web 公開し、学生が学期中にもオンデマンドで視聴が可能としている。日頃からの学習意欲の向上や、ひいては離席率の減少につながることを目指し情報提供方法の改善に努めている。不正行為の防止については、学習ガイダンスでの指導に加えて機会ある毎に科目の担当者が度重なる指導を行う等を通じて十分な意識の浸透を図って行きたい。

II. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

<p>学部（学科）における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p> <p>＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p>		

(2) 通信教育部の新たな改革に向けての取り組み

<p>『通信教育部改革の検証について（報告）』を受けて（2021年度第8回通信教育学務委員会資料No.7）において示された新たな改革に向けた取り組みのうち、以下の点について、改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>		
<p>初年次教育と若年層入学者への対応について</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>S (さらに改善した又は新たに取り組んだ)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p> <p>初年次教育の一環として4月の学習ガイダンスの実施時期を早め、入学者がより円滑に履修計画の立案を行い、モチベーションを持ちつつ学習環境へ早期に移行できるよう学習指導の充実化を図っている。若年層を含む幅広い層からのニーズに応えるべく、メディアスクーリング科目を追加開設するなどの改善に努めている。</p>		
<p>遠隔会議システムを利用したスクーリングの常設や教育のオンライン化について</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>S (さらに改善した又は新たに取り組んだ)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p> <p>2024年度より夏期1群および冬期1群に配置されたスクーリング科目については、一部の実習科目を除き、オンラインによる実施へと移行している。教育効果等を考慮しながら必要性に応じて一層のオンライン化への取り組みを検討して行きたい。</p>		

Ⅲ. 2024年度中期目標・年度目標達成状況報告書

<p>評価基準</p>	<p>理念・目的</p>	
<p>中期目標</p>	<p>幅広い年齢層や若年層の入学増加を視野に入れ、多種多様な学問的関心や入学動機に応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う教育・学習環境の整備を推進する。</p>	
<p>年度目標</p>	<p>—</p>	
<p>達成指標</p>	<p>—</p>	
<p>年度末</p>	<p>教授会執行部による点検・評価</p>	
<p>自己評価</p>	<p>—</p>	

報告	理由	—
	改善策	—
評価基準		内部質保証
中期目標		学習過程・単位修得方法の厳正化
年度目標		—
達成指標		—
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	—
	理由	—
	改善策	—
評価基準		教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標		通信教育での学び直しの取り組み状況を振り返り、今後の取り組みのあり方・方向性を整理する。特に入学率が増加傾向にある若年層にも対応したコンテンツの作成などの施策を検討する。
年度目標		「リカレント教育の場」としての提供価値を検討しながら、急速なデジタル環境の進展に対応し、増加傾向にあるデジタルネイティブへも対応できるよう、デジタルコンテンツの充実化を検討する。
達成指標		提供科目や教育サービスにおいて、デジタルコンテンツに代替可能な対象を検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	11月に開催された第8回経営学部教授会にて、今後、通信学習科目とメディアスクーリングの両方を開講している科目についてはメディアスクーリングに順次一本化することを決め、デジタルコンテンツの充実化を図った。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	通信学習科目とメディアスクーリングの両方を開講している科目についてメディアスクーリングに順次一本化する決定は、デジタルコンテンツの充実化という年度目標やその達成指標に符合している。
	改善のための提言	—
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。
年度目標		デジタルコンテンツの一つとなるメディアスクーリング科目の充実化を目指す。
達成指標		さらなるメディアスクーリング科目を開講する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	「会計情報論Ⅱ」と「情報学基礎」の2科目を新規メディアスクーリング科目として次年度開講することが決まり、デジタルコンテンツを充実させた。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	ニーズの高いメディアスクーリング科目に関連し、2025年度新規2科目の開講決定は大いに評価に値する。
改善のた	—	

	めの提言	
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	在学期間の短縮化に努める。
	年度目標	初年次教育において、計画的な学習プランを示しながら、学位修得後の勉学意欲の継続性を刺激する。
	達成指標	学習ガイダンスで、在学期間中の履修計画と卒業後の可能性を示唆する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学習ガイダンスでは勉学モチベーション向上のため、卒業後の進路の一つとして大学院への進学の可能性を明示した。 本学科は実学志向の強い科目が多く、より高度な知識を提供する大学院 MBA コースの存在を認知させることによる勉学意識の向上か期待できるためである。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	最近、商業学科卒業後、本学大学院経営学研究科への志願者が増加傾向にあり、このような進学経路は商業学科への入学動機や勉学意欲の向上に貢献していると評価できる。
	改善のための提言	—
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	離籍者の軽減に努める。
	年度目標	離籍率の多い初年次における教育の充実化を図ると共に、入学希望者のニーズと商業学科のもつ提供価値とのミスマッチを防ぐために入試判定の厳格化を進める。
	達成指標	学習ガイダンスの動画視聴を可能とし、学習プランと履修計画の継続的な提供を行うことによって、勉学モチベーションを高めて離籍率の軽減を図る。また、学務委員による入試判定の厳格化をさらに進める。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	離籍率はまだ低水準を維持してはいるが、13.9%から14.6%と微増に転じた。 初年次の学生を対象にした春・秋の学習ガイダンスをオンラインで実施し、さらに動画視聴を可能とし、学習プランと履修計画に関する情報を随時提供することができた。これにより離籍率の減少を期待したい。 入試判定は、引き続き2名の学務委員が厳格に行なった。
	改善策	離籍率は過去10年程徐々に減少傾向にあったため（コロナ禍の20年から22年は約1%さらに減少）、今後の推移に注視し、必要な場合には早期に対策を練る予定である。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	離籍率は過去10年間の時間軸で見れば低水準にあるとはいえ、近年微増している。学習プランと履修計画に関する情報に随時アクセスできる環境整備が離籍率の減少に繋がることを期待したい。
	改善のための提言	学習ガイダンスや授業一般において初年次教育や学生指導を強化し、離籍率減少のための更なる取り組みが望まれる。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
	年度目標	通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムであることの周知に努める。
	達成指標	通信教育部、経済学部商業学科のホームページにて、通学課程のカリキュラムと同一

	水準にあることを発信することに加え、在学生を通じた推奨の支援を行う。	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	ホームページにて通学課程のカリキュラムと同一水準であることを発信し、在学生を通じた推奨支援を行った。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	カリキュラムの充実さの発信、在学生を通じた推奨支援を引き続き強化していくことが期待される。
	改善のための提言	—
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。教員の採点作業の軽減に向けて、通信教育部システムの採点 Web 化の仕様と運用方法の検討を行う。	
年度目標	専任および兼任教員の専門性を考慮しながら、通信学習科目とスクーリング科目のバランスを考慮した開講に努める。また、教育負担の平準化を目指す。	
達成指標	通信教育課程主任と学務委員が中心となり、通信教育学務委員会ならびに教授会と連携をとりながら、科目担当教員が適切に配置されているかを検証していく。	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学務委員を中心に専門性と開講形態においてバランスがとれた科目担当教員の配置を行い、教授会でその配置が適切かを検証した。 本年度よりオンラインでのスクーリングを常設している。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	通信学習科目とスクーリング科目の担当教員について専門性と開講形態を考慮し配置を行っていることは望ましい取り組みであり、その継続が期待される。
	改善のための提言	—
評価基準	学生支援	
中期目標	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。社会環境の変化と学習の ICT 化に対応した教育サービスを構築する。	
年度目標	不正行為ゼロを目指し、学生に周知徹底する。	
達成指標	学習ガイダンスを通じて、不正行為防止に努める。	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	本年度の不正行為の数は 14 件（22 年度 4 件、23 年度 9 件）に増加した。不正行為者への面談から、集団で不正行為を行ったことが明らかになり、件数の増加となった。
	改善策	学習ガイダンスにおいて不正行為の防止をさらに徹底するとともに、各授業においても試験実施の際に不正行為防止の呼びかけを徹底する必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	直近 3 年間、不正行為の件数が増加傾向にあるが、その対策が求められる。
	改善のための提言	不正行為を未然に防ぐために、学習ガイダンスの際の徹底した指導が必須不可欠であるが、高学年になるとその効果が薄まりがちなので、各科目担当教員による重なる注意喚起が要請される。

評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。	
年度目標	「リカレント教育の場」としての提供価値を明確にし、様々な学習ニーズに対応すべく開かれた姿勢で学生を受け入れ、卒業生と在校生の連携を強化し、社会的弱者に対しても一層の配慮を心がける。	
達成指標	卒業生による体験談をホームページなどで引き続き公表し、学習モデルの例示による勉学モチベーションの向上を図る。また、大原学園との併修協定による成果を引き続き検証する。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	卒業生による体験談などの公表による学習モデルの提示と勉学の動機づけは、ホームページ等を通じて実施できている。本学科と大原学園間の併修協定による成果を検証し、協定の継続更新を行った。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	従来通り、卒業生との連携や大原学園との併修協定の更新を行っているが、継続とともにその成果の検証が期待される。
	改善のための提言	—
<p>【重点目標】 急速なデジタル環境の進展と入学者比率の増加しているデジタルネイティブへの対応を検討すると共に、「リカレント教育の場」であることの提供価値を検討する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 デジタルコンテンツとなるメディアスクーリング科目の充実化を図ると共に、「リカレント教育の場」としての提供価値となる教育サービスのデジタル化の拡充を目指す。また、デジタル化に伴う不正行為の防止を念頭に置きながら、順調な進級を推し進めるために初年次教育の強化を図る。</p> <p>【年度目標達成状況総括】 本年度はデジタルコンテンツの充実化を目指し、通信学習科目からメディアスクーリング科目への順次移行に関する意思決定を行ったことは大きな進歩である。 また、離籍率の多い初年度の学生に対するガイダンスを実施すると共に動画配信を行い、随時視聴を可能にすることにより履修・学習の計画見直しが容易にできるよう情報提供を行った。 残念なことに、不正行為が増加したので、その防止策を早急に検討する必要がある。</p>		

IV. 2025年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	幅広い年齢層や若年層の入学増加を視野に入れ、多種多様な学問的関心や入学動機に応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う教育・学習環境の整備を推進する。
年度目標	—
達成指標	—
評価基準	内部質保証
中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化
年度目標	—
達成指標	—
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	通信教育での学び直しの取り組み状況を振り返り、今後の取り組みのあり方・方向性を

	整理する。特に入学者比率が増加傾向にある若年層にも対応したコンテンツの作成などの施策を検討する。
年度目標	授業コンテンツの一層のデジタル化および教育サービスのオンライン化の充実を図ると共に、学びに対する意欲・姿勢の向上を目指す。
達成指標	ICT 環境を利用したデジタルコンテンツによる授業や学びに関する情報の提供、およびオンラインによるコミュニケーションの充実を図る。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。
年度目標	授業コンテンツのデジタル化を図り、スクーリング科目の新設および既存科目のメディアスクーリング開講を目指す。
達成指標	スクーリング科目の履修状況を把握し、担当教員の配置や分担が適切かを検証しながら、ICT を利用したスクーリング科目の充実化を検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	在学期間の短縮化に努める。
年度目標	適切な学習プランを立て、計画通りに履修を行えるよう、初年次教育を充実させる。
達成指標	入学後の早期に学習ガイダンスを実施し、学生が適切な履修計画を立て、スムーズに学習が始められるよう指導する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	離籍者の軽減に努める。
年度目標	過去の離籍者データから傾向を把握すると共に、初年次教育と学習ガイダンスの強化を図る。また、入学希望者のニーズと商業学科の提供するカリキュラムのミスマッチを防ぐために入試判定の厳格化を継続して行っていく。
達成指標	学生が学習プランと履修計画に関する情報に随時アクセスすることで学習に対するモチベーションを維持できるよう、学習ガイダンスの動画コンテンツの継続的な web 公開を進める。複数名の学務委員により厳格に入試判定を行う。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
年度目標	商業学科のカリキュラムの充実さ、通学過程と同一水準のカリキュラムであることの周知に努める。
達成指標	商業学科のカリキュラムを公開している法政大学通信教育部のホームページにおいて、通学過程と同一水準であることを引き続き発信して行く。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。教員の採点作業の軽減に向けて、通信教育部システムの採点 Web 化の仕様と運用方法の検討を行う。
年度目標	担当教員の専門性と授業の開講形態を考慮した配置を行う。科目や授業形態による負担の平準化に努める。
達成指標	学務委員と通信教育課程主任が中心となり、通信教育学務委員会および学部教授会と連携しながら、科目担当者が適切に配置されているかを検証して行く。
評価基準	学生支援
中期目標	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。社会環境の変化と学習の ICT 化に対応した教育サービスを構築する。
年度目標	不正行為を未然に防ぐため、学生への注意喚起を徹底する。
達成指標	不正行為の減少に向けて、学習ガイダンスおよび各科目の担当教員による度重なる指導を行う。
評価基準	社会連携・社会貢献

中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。
年度目標	リカレント教育の場として、多様な学習ニーズを持つ様々な学生が学べるよう、開かれた姿勢で学習機会の場を提供して行く。
達成指標	卒業生による学びの体験談をホームページで公開し、幅広い層に向けて学習モデルを示すことで、本学における学習意欲の向上を図る。大原学園との併修協定の成果を引き続き検証する。
<p>【重点目標】 授業コンテンツの一層のデジタル化および教育サービスのオンライン化の充実を図ると共に、学びに対する意欲・姿勢の向上を目指す。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 ICT 環境を利用した授業の一層のデジタル化を図りスクーリングを充実させる。初年次教育を強化することで学びに対する意欲の向上を目指すと共に、授業に際して持つべき態度や不正行為防止に関する啓発を適時コミュニケーションを介して行いながら、適切な学びの姿勢を身に着けられるよう支援を行う。</p>	

IV-2. 2025年度中期目標・年度目標達成状況報告書

経済学部商業学科通信教育課程

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）			質保証委員会による点検・評価（教授会報告）	
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
理念・目的	幅広い年齢層や若年層の入学増加を視野に入れ、多種多様な学問的関心や入学動機に応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う教育・学習環境の整備を推進する。	—	—	—	—	—	—	—
内部質保証	学習過程・単位修得方法の厳正化	—	—	—	—	—	—	—
教育課程・学習成果 【教育課程・教育内容に関する事】	通信教育での学び直しの取り組み状況を振り返り、今後の取り組みのあり方・方向性を整理する。特に入学率比率が増加傾向にある若年層にも対応したコンテンツの作成などの施策を検討する。	授業コンテンツの一層のデジタル化および教育サービスのオンライン化の充実を図ると共に、学びに対する意欲・姿勢の向上を目指す。	ICT環境を利用したデジタルコンテンツによる授業や学びに関する情報の提供、およびオンラインによるコミュニケーションの充実を図る。	S	メディアスクーリングに一層化する科目を増やし、デジタルコンテンツによる授業の充実化の方向性をさらに深めた。	—	受講生・教員双方のニーズに応じてカリキュラムを再考し、デジタルコンテンツによる授業の拡充の方向に舵を切っている点が評価できる。	—
教育課程・学習成果 【教育方法に関する事】	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。	授業コンテンツのデジタル化を図り、スクーリング科目の新設および既存科目のメディアスクーリング開講を目指す。	スクーリング科目の履修状況を把握し、担当教員の配置や分担が適切かを検証しながら、ICTを利用したスクーリング科目の充実化を検討する。	A	財務会計論に加え、管理会計論をデジタルコンテンツを利用したスクーリングへ一層化する事で教員負担の適切化に努めた。	—	学部を持つ人的リソースを効率的に動員するべくスクーリングを再編成しているのは現実的および効果的方策である。	—
教育課程・学習成果 【学習成果に関する事】	在学期間の短縮化に努める。	適切な学習プランを立て、計画通りに履修を行えるよう、初年次教育を充実させる。	入学後の早期に学習ガイダンスを実施し、学生が適切な履修計画を立て、スムーズに学習が始められるよう指導する。	S	4月の学習ガイダンスを従来より早い月上旬に実施し、入学生が早期に履修方法を理解した上で、スムーズに履修計画をたてられるよう支援を行った。	—	初年次教育に焦点をあて学習ガイダンスを計画的に企画・運営し、長期にわたって学習効果が出やすいと思われる履修体制を立ち上げている点が評価に値する。	—
教育課程・学習成果 【学習成果に関する事】	離籍者の軽減に努める。	過去の離籍者データから傾向を把握すると共に、初年次教育と学習ガイダンスの強化を図る。また、入学希望者のニーズと商業学科の提供するカリキュラムのミスマッチを防ぐために入試判定の厳格化を継続して行っていく。	学生が学習プランと履修計画に関する情報に随時アクセスすることで学習に対するモチベーションを維持できるよう、学習ガイダンスの動画コンテンツの継続的なweb公開を進める。複数名の学務委員により厳格に入試判定を行う。	A	録画した学習ガイダンスをwebで継続的に公開し、必要な情報へ随時アクセスできる環境を維持した。入試判定においては全ての実施回において、複数教員により厳格に判定を行った。	—	学習ガイダンスによる科目履修支援、および的確な入試判定の二点を軸にした方略が、カリキュラムに適合した学生の獲得とドロップアウトの防止につながっていると推測できる。	—
学生の受け入れ	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。	商業学科のカリキュラムの充実さ、通学過程と同一水準のカリキュラムであることの周知に努める。	商業学科のカリキュラムを公開している法政大学通信教育部のホームページにおいて、通学過程と同一水準であることを引き続き発信していく。	A	ホームページにおいて通学課程と同一水準であることを引き続き発信し、周知のための情報公開を継続的に行った。	—	ホームページを通して入学を検討している層に情報を提供し、通学過程に劣らぬ教育水準であるというメッセージを安定的に伝達している。	—
教員・教員組織	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。教員の採点作業の軽減に向けて、通信教育部システムの採点Web化の仕様と運用方法の検討を行う。	担当教員の専門性と授業の開講形態を考慮した配置を行う。科目や授業形態による負担の平準化に努める。	学務委員と通信教育課程主任が中心となり、通信教育学務委員会および学部教授会と連携しながら、科目担当者が適切に配置されているかを検証して行く。	S	今後の通信学習と各種スクーリングの在り方について、担当理事、当該部局、学部執行部等が参加する検討の場を設け、今後の授業形態や一本化による負担の平準化等について検討を進めた。	—	担当理事、当該部局、学部執行部、通教主任など様々な部局が協力して多角的に検討を重ね、カリキュラムや教員のニーズにこたえる仕組みを構築していると評価できる。	—

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）		質保証委員会による点検・評価（教授会報告）		
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
学生支援	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。社会環境の変化と学習のICT化に対応した教育サービスを構築する。	不正行為を未然に防ぐため、学生への注意喚起を徹底する。	不正行為の減少に向けて、学習ガイダンスおよび各科目の担当教員による度重なる指導を行う。	A	本年度の不正行為の件数は4件(22年度4件、23年度9件、24年度14件)で、学習ガイダンスに加え、シラバスや授業内での指導を行った結果として減少傾向となった。	—	早期に行った学習ガイダンスや、シラバスの第三者チェック、および授業内における指導が不正行為の減少傾向につながっていると考えられる。	—
社会貢献・社会連携	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。	リカレント教育の場として、多様な学習ニーズを持つ様々な学生が学べるよう、開かれた姿勢で学習機会の場を提供して行く。	卒業生による学びの体験談をホームページで公開し、幅広い層に向けて学習モデルを示すことで、本学における学習意欲の向上を図る。大原学園との併修協定の成果を引き続き検証する。	B	卒業生との座談会の様子をホームページで公開し、幅広い層に向けて学習機会の場を提供する姿勢について周知に努めた。大原学園との併修協定は継続となったが、その成果については十分な検証が行われていない。	これまでの併修協定の成果を検証する機会を設け、今後の協定の在り方について検討を行っていく。	卒業生に協力してもらい、社会人教育・生涯教育としての通信教育をホームページ上で可視化しているのは効果的である。	今後も卒業生による情報発信を更新・継続しつつ、大原学園との併修協定維持とその効果の検証を行うことが期待される。

自己評価について

- S 目標を十分達成し、質の向上が顕著である。
- A 目標をほぼ達成し、質の向上が見られる。
- B 目標の達成が不十分である。
- C 目標が達成できていない。

【重点目標】	【目標を達成するための施策等】
授業コンテンツの一層のデジタル化および教育サービスのオンライン化の充実を図ると共に、学びに対する意欲・姿勢の向上を目指す。	ICT環境を利用した授業の一層のデジタル化を図りスクーリングを充実させる。初年次教育を強化することで学びに対する意欲の向上を目指すと共に、授業に際して持つべき態度や不正行為防止に関する啓発を適時コミュニケーションを介して行いながら、適切な学びの姿勢を身に着けられるよう支援を行う。
【年度目標達成状況総括】	
4月の学習ガイダンスを従来より早い時期に実施することで入学生がよりスムーズに履修方法を理解し学習計画をたてられるような支援を行ったことに加え、今後の通信学習とスクーリングの在り方について関係部局、学務委員および経営学部執行部が参加する検討の場を設けメディアスクーリングへの一本化に関して具体的な議論を行ったことが、今年度の主要な成果である。一方、不正行為については減少傾向に転じたものの、SNSを含む近年の情報サービスの不適切な利用を懸念するケースも見受けられたため、対策については今後も継続的に検討を進める必要がある。	